

## 令和5年度射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	射水福祉会あいネットいみず	類型	地域活動支援センターⅠ型
標準利用人員	20人／日	委託金額	12,000千円

### 1 事業総括

#### 令和5年度目標

##### (基礎的事業)

- ・相談員の資質（面談技術の向上及び社会資源の活用・調整力）の向上
- ・利用者ニーズに即した創作的活動、生産活動と地域支援プログラムメニューの工夫・充実
- (Ⅰ型事業)
  - ・ボランティア団体の活用の工夫と市民に対するボランティア参加の呼びかけの強化
  - ・民生児童委員、障がい者相談員や各種関係機関との連携の強化のための取り組みの実践

事業内容	成果
基礎的事業	
(1) 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービス利用に関する相談、不安解消に関する相談、年金、生活保護に関する相談、成年後見に関する相談等を受けた。傾聴の姿勢で十分に話を聞き、的確なニーズ把握を行い、病院や包括支援センター等の関係機関と連携を図りながら対応した。992件の相談のうち、478件は福祉サービスの利用計画作成を行った。</li> <li>・障がい者本人及び家族の心の拠り所としての役割を担った。</li> <li>・相談内容別では、福祉サービスに関するものが712件と最も多く、全体の約7.2割を占めている。</li> <li>・障がい別では、知的障がい者からの相談が719件と最も多く、身体障がい者110件、精神障がい者44件となっている。</li> </ul>
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動支援センターでは、コロナの感染予防にも配慮しながら、利用者同士の交流の場づくりや雰囲気づくりに努めたが、依然として感染の不安から利用を控えている利用者も少なくない。そのため、利用者のニーズに応えられるものがなかなか開催できなかつた。前半、就労を辞めた利用者が次の就労先を決めるまで毎日活動に参加してリズムをつくり次の就労に繋げた。年間延べ834名が創作的活動や生産活動、憩いの場に参加した。</li> <li>・創作的活動の主なものとしては、昼食づくり・お菓子づくりや季節の飾り、小物入れ、フェルトマスコットづくりなどの工作等を実施し、延べ379名が参加した。生産活動は72名が参加した。また、余暇支援活動としては、近くのコミュニティセンターにお願いして月1回ランチとカラオケの行事をさせてもらっている。利用者は嬉しそうにランチやカラオケを堪能していた。また、公共交通機関を利用した市内、市外の芸術鑑賞を企画したところ好評であった。</li> </ul>
(3) 社会との交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ前は、地域の中学生との交流活動を企画し、利用者と中学生が一緒に料理づくりや音楽活動に取り組み、交流を図っていたが、今年もコロナのため実施できなかつた。地域のコミュニティセンターのクリスマスやハロウインのキッズ行事に参加して母と子どもと交流した</li> </ul>
I型事業（機能強化事業）	
(1) 医療、福祉及び地域の社会基盤との連携強化及び調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間110回のサービス調整会議を通じ、医療・福祉並びに地域の関係機関等との連携を図った。</li> <li>・特別支援学校を卒業する生徒に対し、適切な進路への移行が円滑に進むよう保護者、教師、事業所等による移行支援会議を開催した。</li> <li>・学校と連絡を取り、放課後等デイサービス事業所が特別支援学級を見学し、情報交換できる機会を設けた。</li> </ul>
(2) 地域住民ボランティアの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年地道に地域の学校と交流会を続けながら、ボランティアに対する意識を高めてきたが、コロナウイルス感染防止のため実施することができなかつた。</li> </ul>

(3) 障がいに対する理解の促進を図るための普及啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に引き続き大学教授を講師に迎え、手話通訳も依頼して、射水市立大門中学校の2年生を対象に「違いを豊かにするための地域共生社会とは～みんなは大門大島が資源（たから）、みんなで支援（ちから）～」を演題に教育と福祉の講演会を行った。今年も中学生が手話を実際に学習し、障がいに対する理解の促進と普及を図った。</li> <li>広報誌やホームページを活用して相談窓口の普及を図った。</li> <li>障がい者週間に、地域の社会福祉協議会に協力してもらい、ポスター掲示や障がい者の作品展示、花苗と菓子販売を行い、障がい福祉への理解、啓発普及を行った。</li> <li>交流を図るとともに、普及啓発を目的に実習生を受け入れた。(延べ 実習生20名。)</li> </ul>
(4) 地域活動支援センター間の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内4か所の地域活動支援センター間の連絡調整と、毎月第2木曜日に開催されるセンター連絡会の運営を行った。(令和5年度8回開催)</li> </ul>

#### 職員配置について

区分	氏名	資格
管理者	稻垣 宏	
センター長・相談支援員	滋野 雅治	
相談支援専門員	田尻 里子	社会福祉士、介護福祉士
相談支援専門員	原田 早季	社会福祉士、精神保健福祉士
相談支援専門員	横田 萌	社会福祉士、介護福祉士

## 2 相談支援の実績

### (1) 運営体制について

#### 相談窓口

窓 口	場 所
あいネットいみず	同上
受付窓口 8：30～17：15	
電話 24時間(17：15～翌8：30は留守番電話対応)	
ファックス 24時間	
メール 24時間	

### (2) 相談件数について(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

#### ①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
493	84	35	245

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
12	110	0	13	992

#### ②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
110	0	719	44	36	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
0	53	0	16	0	14	992

③相談内容別件数(延べ件数) (相談内容を重複計上)

福祉サービス	障がい理解	医療機関同行服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介		
712	31	18	5	47	0	
教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児	
1	11	28	9	0	0	
就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
13	0	3	3	13	98	992

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	35	40	47	41	16	30	28	25	25	34	28	31	380
生産活動	17	10	13	18	0	0	0	2	5	5	1	1	72
社会との交流促進	38	41	48	42	16	30	28	27	25	29	28	31	383
合計	90	91	108	101	32	60	56	54	55	68	57	63	835

4 今年度の地域活動センターの運営等について(目標の達成状況、課題など自由記述)

- ・福祉・保健・医療・教育・労働・司法等の関係機関や地域住民との連携のあり方について
- ・高齢家族などの利用者以外の支援や家庭力の弱い利用者への対応について
- ・利用者の高齢化に伴う介護と障がいの連携体制について
- ・民生児童委員や障がい者相談員、地域住民ボランティアとの連携強化及び拠点としての役割について
- ・感染症への不安や利用者の高齢化、病状の悪化により地域活動への参加機会の減少
- ・居場所としての地域活動支援センター活動の見直しと機能拡充の工夫
- ・幼小中高などにおけるサービス利用の状況や課題を関係機関がどのようにして共有し、理解、連携していくか

# 令和5年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人ふらっと	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

## 1 事業総括

### 令和5年度 目標

- ・地域生活支援拠点事業の整備の推進に協力し、地域社会資源の一つとして、障がいのある方や家族、一般市民が安心して利用・交流ができるセンターを目指す。
- ・今後も新型コロナウイルスとの共存を図りながらの地域福祉の実現に努める。安全保障型接觸サービスによる、従来通りの介助や直接支援と、非接觸型サービスによる相談支援や研修、会議などの両立を継続していく。
- ・一般の情報サイト運営会社やアーティストと協力し、ZOOM等も活用しながらハイブリッドで楽しめ、生活意欲が高まるbeyondコロナの余暇支援を行う。
- ・テレワークや働き方改革、離職等によって起こりうる、DVや虐待、プライバシーの侵害、コロナうつ、コロナ離婚など、家族の状態を把握する。母親の孤立感や障がいのある子の子育て、介護に加えて兄弟、夫などの世話が増えることによる精神的負担感を開放できるよう支援する。
- ・兄弟の精神疾患や不登校、引きこもり等、ヤングケアラーに関する取り組み。
- ・本人及び家族が「働く」ことについての啓発と支援。
- ・障がい乳幼児の子育て支援や関わり、専門性が必要な強度行動障害、医ケア、引きこもり、発達障がいの方の自立支援について理解を深める研修等を行い、直接援助技術の向上に努める。
- ・障がいのある方の在宅生活の継続のためには、幼少期からの父親の関わりも大切。パパ支援のサークルを支援していく。
- ・一般市民と共に学ぶ取り組みの実施。虐待防止を中心とした地域生活を推進するチームづくりを目指す。

事業内容	成果
基礎的事業 (1)相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナが第5類となり、社会活動や地域行事が少しずつ元に戻るに伴い、土・日・祝日の居場所や外出等のサービスについての相談や、障がい児やその兄弟姉妹、発達障がい児が登校できない場合の居場所についての相談が多くなった。</li> <li>・家族の急病や葬祭への出席等により、宿泊までとはいえないが、夕方から夜にかけての急な預かり先についての相談と調整が数件あった。宿泊ではないため地域定着支援拠点事業の対象とはならなかった。</li> <li>・医療的ケア児や重症心身障害児者の短期入所や入浴サービスについて受け入れ事業所が限られており、ニーズに応えきれていない現状が続いている。</li> <li>・能登半島沖地震後の安否確認・不安の聞き取り、避難行動要支援者名簿への登録の推進となる働きかけを行った。</li> </ul>
(2)創作的活動及び生産活動の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作活動は子育て中の母親や乳幼児達と一緒に、花見やいちご狩り、クリスマス会などの季節に合ったイベントの実施や、手形や足形でこいのぼりやクリスマスのトナカイを表現し楽しんだ。また、アーティストと一緒にキャンドル作りをしたり、アロマ、メイクセラピー、ヨガ等も経験した。</li> <li>・射水市まちづくり協議会と共に開催している「ふらっと作品展」を令和5年度も4月に小杉展示館にて開催した。利用者が制作した手芸品やイラストをプリントしたバック、コットン玉で作ったオーナメント等を飾るとともに販売も行った。</li> <li>・地区のカフェから声をかけてもらい、作品展示の機会をいただいた。創作活動での作品を、地域住民に知っていただく良い機会となった。</li> <li>・地域の高齢ボランティアの方と一緒に、夏野菜やサツマイモの植え付けから収穫までの作業を行なって、ふらっと収穫祭を行なっている。また、畑で収穫したラベンダーやミントなどのハーブを地域の方に配布したり、障がい者施設で生産した花苗を購入しプランターで育てている。</li> </ul>

### (3) 社会との交流促進

- ・「射水市まちづくりネットワーク」、「小児がんのコト親の会」の皆さんと利用者と共に、アスカタ'23に使用する「つながるTシャツ作り」を前庭の「みどりの居処」で実施した。思い思いのペイントを楽しみ、カラフルなTシャツができあがった。
- ・感染症対策に留意しながら、県内外からの見学者や地域の方のボランティアの受け入れを行なった。また、看護学生や医療・福祉・保育の学生の実習やボランティアも積極的に受け入れをすることで、利用者との交流を深めた。
- ・障がいのある方の介護家族に対して、地域のWebデザイナーを講師に迎えて「ふらっとスマホ講座」を今年度も開催した。ビデオ通話や写真のやり取りなど、コミュニケーションツールを活用して仲間同士の交流が拡がった。
- ・障がいのある方の虐待防止や、権利擁護・意思決定支援を推進するために、「チームカラフルs」を結成し、定期的に地域住民や外部委員との話し合いの場を設けている。
- ・コロナ禍で参加していなかった「下条川みこしまつり」に、4年ぶりに参加した。久しぶりの人も初めての人も、賑やかなパレードやパフォーマンスに参加し、夜には「ふらっとMARCHE」も開催し、アーティストの作品販売や多数の飲食店の出店、癒しのキャンドルの灯りとファイヤーパフォーマンス、巨大人形隊の催しもあり、思い思いの交流を楽しんだ。
- ・春は海王丸パークで開催されたライブイベント、夏は小児がんのコト親の会が主催する「灯り」イベント（富山環水公園を灯すキャンドルとファイヤーショーへの夜の外出）に地域生活支援事業の障害者（児）移動支援事業を活用してグループで出かけ、ボランティアや一般の参加者の皆さんとともに盛り上がったり、時間を共有することができた。秋には、「ベタライ（射水市の障がい者福祉を考える会）」主催の「マーブルウエディング」にふらっとからも多くの方が参加し、グループでも出かけた。ウエディングドレスやタキシード、プロによるメイクでドレスアップをして、他の福祉事業所や地域の障がいのある方、認知症の方、LGBTQ+の方々とともに、主役としてウエディングイベントで輝いた。
- ・射水市・富山市の介護・福祉事業所や小児がんのコト親の会の親子、子育て中のママと子どもの参加により、スポーツ交流会「第9回スปランふらっと杯」を富山県総合運動公園内の室内グランドで開催し、カターレ富山の選手とライカ君とともにスポーツを楽しんだ。各事業所の利用者・スタッフ、地域の医療的ケア児、子育て中の親子、介護が必要なお年寄りや発達障がいの方と共に運動を通じて交流した。
- ・1月には、「射水市障がい者理解促進研修・啓発事業」も活用して、自治振興会、民生児童委員、地区社協、地域包括支援センター、ボランティア協議会等、地域の方々や学生ボランティアに協力をしていただきながら、「New Year Party & もちつき大会」を開催した。能登半島沖地震後でもあり、地域の皆さんとの重層的な連携の大切さや深まりを感じるイベントとなった。
- ・近所の教会の皆さんの訪問でXmasソングのプレゼントが届き、一緒に歌ったりプレゼント交換をしたりと交流を深めた。
- ・地区的女性消防団や防災士から、火災や水害、地震の時の避難行動のポイントや、手作りの防災グッズと一緒に作ることで、相互の理解促進を図った。

職員配置について

区分	氏名	資格
管理者・主任相談支援専門員	宮袋 季美	
センター長・主任相談支援専門員	山本 真紀子	社会福祉士・保育士
相談支援専門員	佐藤 格	社会福祉士
相談支援専門員	熊田 由依	介護福祉士・保育士
相談支援専門員	池田 美幸	社会福祉士・保育士
支援員	増川 元英	

## 2 相談支援の実績

### (1) 運営体制について

#### 相談窓口

窓 口	場 所
地域活動支援センターふらっと	同左
受付窓口 9:00～18:00電話 24時間(18:00～翌9:00は留守番電話対応)	
ファックス 24時間	
メール 24時間	

### (2) 相談件数について(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

#### ①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
92	767	14	1789

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
147	33	71	281	3,194

#### ②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
202	276	1,003	150	359	13

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
266	789	42	2	0	92	3,194

#### ③相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
1,846	279	19	550	200	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
72	12	32	7	7	17

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
28	2	33	4	1	342	3,451

## 3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	59	81	47	74	82	80	110	95	67	116	190	126	1,127
生産活動	64	37	44	64	69	49	71	75	63	19	126	46	727
社会との交流促進	577	109	33	28	160	46	45	47	30	67	46	18	1,206
合計	700	227	124	166	311	175	226	217	160	202	362	190	3,060

※4月:ふらっと展(521人)

#### 4 今年度の地域活動支援センターの運営等について（目標の達成状況、課題などを自由記述）

- ・コロナ禍で引きこもっていた方などが少しずつ活動を始める際のプラットホーム（停車場）として、地域活動支援センターが担う居場所としての役割の重要性を感じた1年であった。ふらっとを居場所としてお茶を飲みに来る方や、掃除を自分の役割としてすることで、短時間でも決まった曜日や時間に自宅から出かけてくる方が複数名利用を継続しておられる。その中の1名は、ふらっとを体験就労活動の場として社会福祉協議会の生活困窮者就労準備支援事業を活用し、現在一般企業に就労し、現在も仕事が休みの時の居場所としての利用が継続している。
- ・令和5年度から、射水市社会福祉協議会が実施している「ひきこもり相談会」に、年3回相談員を派遣することで、ふらっとの地域活動支援センターを居場所として紹介できる機会が増えた。
- ・その他にも障がい児や、発達障がい児、兄弟姉妹等、登校渋りや不登校が始まり、フリースクール等の学習の場が定着する前の混乱期にも、児童にとってはリフレッシュの場として、家族にとっては、就労を継続するためにも安心して預けることができる場所としての利用がある。
- ・介護保険対象の方ではあるが、身体の元気な若年性認知症の方やその家族が、サービスに繋がるまでの居場所としても求められている。
- ・フードバンクとやまからの食品の提供を受け、生活困窮の方やその支援者の方々との繋がりが生まれ、継続している。
- ・射水市内の障がい児者福祉サービス事業所、社会福祉協議会、富山福祉短期大学教員の有志とともに「ベタライ（射水市の障がい者福祉を考える会）」を発足し、障がいのある方（当事者）、福祉短期大学、情報ビジネス専門学校の学生や教員、行政職員とともに、半年余の協議、準備をし、当事者が主役として輝くイベント「マーブルウエディング」を開催した。実施に向けての協議や、協賛団体への働きかけを通じて、射水市内の障がい福祉サービスや介護支援事業所間の繋がりが深まる可能性を感じた。この繋がりを基に、能登半島沖地震で必要性を痛感したBCP（業務継続計画）においても、地域活動支援センターや各事業所間の連携を、より深める取り組みを協議中。
- ・様々な活動を行う中で、委託料と活動経費が見合っていない。利用される方々の殆どが、経済的不安があり、諸経費の徴収が見込めない。継続するための委託料の不足が課題。

#### 5 自由記載欄

ふらっとは富山型デイサービス事業所であり、事業内容は、障がい者、障がい児、介護、子育て支援等、これまでも共生型の事業を基盤として運営してきている。令和6年度から実施される射水市の重層的支援体制整備事業に向けて、「地域ささえあい会議」や「まちづくりネットワーク」等の地域の方々との集まりに参加させていただく機会が増え、顔が見える関係が深まってきている。地域活動支援センターも、さらに地域の皆さんとの交流の場や居場所として活用され、地域における支援困難な方についても、関係機関や団体等と共同しながら支援していくための機能を強化していくことが望まれる。

## 令和5年度射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人ワークホーム悠久	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

### 1 事業総括

#### 令和5年度目標

- ニーズに応じた活動の実施
- 主体的に参加できるピア活動の実施、家族への支援の充実
- 関係機関、地域との連携
- 障害に対する理解を促進するための活動を行う

事業内容	成果
基礎的事業	
(1)相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数は1,498件（前年度1,557件）。うち、一般相談は延べ184名、357件あり（25%）。</li> <li>相談者内訳は精神障がい者が1,198件（約80%）と最も多い。</li> <li>電話相談が最も多く、1日に何度も電話があったり、1件の相談に時間を要するものも多い。</li> <li>相談内容は不安の解消が多く、普段から人と接する機会の少ない独居の方の相談が目立つ。</li> <li>新規相談は16件、再相談は3件あり。医療機関からの紹介が一番多く、他事業所や家族からの相談もあった。センターの見学・利用希望が多い。統合失調症の方は少なく、気分障害、軽度知的障害、発達障害、解離性障害、強迫性障害、LGBTQ、これらの重複障害の方だった。</li> <li>元日の地震の後には、眠れない、また起きたらどうしようなどの不安を抱く方が多くいた。</li> <li>計画相談で関わっていた方が福祉サービスの利用を終了されても、引き続いていることが多い。</li> </ul>
(2)創造的活動及び生産活動の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末時点で41名の登録あり。</li> <li>見学は8名、体験利用は4名（延べ16回実施）、新規利用登録者は3名。</li> <li>開所日240日、年間延べ626名の利用あり（前年度806名）。</li> <li>毎月ミーティングを実施し、希望を取り入れながらプログラムに反映し、活動した。通院日などもあるため、提案者が参加できるよう日程調整に配慮した。一方で、フリーの日でないと利用できない方もいる。</li> <li>日頃、身体を動かす機会が少ないとから身体を動かすプログラム（ストレッチ、100歳体操など）が好評だった。</li> <li>外部講師を招いて絵手紙教室やヨガ教室を行った。</li> <li>火、木曜の午後はワークホーム悠久（就労継続支援B型）へ移動してステップアップを目指す方の作業時間帯と位置付けており、実人数4名、延べ116回の参加があった。体調に波があり、作業を休む場合も多いため、就労系サービスの利用などには結びついていない。</li> <li>家族向けの施設開放を行ったが参加者がおらず、個別での応対に終始した。</li> </ul>
(3)社会との交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に周辺地域の街頭清掃（5回/延べ16名）を実施した。</li> <li>近隣施設の利用を積極的に行ったり、市内に新規オープンしたお店にも外出レクとして出かけた。</li> <li>ボランティアや家族会会員などに行事案内をし、行事参加を通して交流を図った。</li> <li>資源回収は、町内の高齢化が進んでいることによってニーズは高かった。</li> </ul>

#### 職員配置について

区分	氏名	資格
管理者・相談支援専門員	戸田みどり	精神保健福祉士
指導員・支援員	赤松聰美	介護福祉士
指導員・支援員	黒田 祐子	

## 2 相談支援の実績

### (1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
地域活動支援センターワーク	同上
受付窓口 9:00~16:00	
電話 24時間(受付時間以外は留守番電話対応)	
ファックス 24時間	
メール 24時間	

### (2) 相談件数について(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

#### ①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
177	157	7	655

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
28	27	447	0	1,498

#### ②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
47	0	93	1198	4	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
1	0	67	70	0	18	1,498

#### ③相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
521	209	1	35	629	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
0	38	0	5	0	0

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
28	0	0	5	4	23	1,498

## 3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数) ※市外含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	44	53	54	39	28	38	31	27	27	24	26	33	424
生産活動	3	8	10	10	9	5	9	16	13	10	12	11	116
社会との交流促進	13	11	11	1	8	2	3	3	10	9	8	7	86
合計	60	72	75	50	45	45	43	46	50	43	46	51	626

## 4 今年度の地域活動支援センターの運営等について(目標の達成状況、課題などを自由記述)

- ・ピア活動の継続
- ・家族同士の交流・情報交換などの機会の提供を増やす
- ・病状の不安定な方が医療機関から紹介をされたり、身体介助(見守り)が必要な方が増えた  
対応が困難な利用者が増えたことにより、専門的なアプローチや一対一の支援の時間が増えた。また、人との接触を避けたい利用者においては空間を仕切るような対応が必要となる場合もあり、他の利用者への影響を考慮し、対応できる日時のみの受け入れとなっている。このような状況を踏まえ、専門性の高い人材の確保が必要だが、なかなか補充に至らないままとなっている。

## 令和5年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人むげん	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	15人／日	委託金額	6, 000千円

### 1 事業総括

#### 令和5年度 目標

地域活動支援事業として、今年度も利用される方々のニーズに寄り添った活動を展開し、生産活動や創作活動を通して持てる能力の維持・向上を図りたい。新たに取り組む事業としては、6月より放課後や長期休暇の子供たちの居場所として現在空きスペースとなっている部屋を開設し、「とやまっ子さんさん広場」を開設し、地域や学生のボランティアとともに子供たちと交流し、地域全体で子供たちの成長の見守りを行いたい。下半期からは空き地となっているスペースにドッグランを整備し、多くの方にむげんに足を運んでもらい、福祉のあるまちづくりの実現を行っていきたい。

事業内容	成果
基礎的事業	
(1)相談支援	市や社会福祉協議会、地域包括支援センターや地域の民生委員などと連携し、障害者やひきこもり、8050問題といった様々な地域課題といった相談や福祉サービス利用による計画相談を適宜・適切に対応した。
(2)創造的活動及び生産活動の機会の提供	令和5年度もむげんの看板商品となっている「チュークリップ」の生産や販売を通して仲間との協働をする体験の機会や単身生活を中心とした調理実習を定期開催し、バランスの良い食生活の支援を行った。
(3)社会との交流促進	これまででも、福祉のある街づくりを課題として、当センターでは近隣自治会長などと協議を重ね、令和5年度では下火となつたコロナ禍ではあったが、「夏祭り」や「良い音楽を聴く会」の実施。久しぶりに参加した地域の皆様の笑顔を見ることができ感動した。「パークゴルフ大会」や「NEWスポーツを楽しむ会」では、近隣住民にも声をかけ一緒に事業を楽しむことができたように感じる。また、6月より開始した「むげんさんさん広場」では、12名の近隣の小学生の登録があり、長期休暇などお子様たちの居場所として、今までむげんと交流を持つことのなかった若い世代の方にも多く利用をして頂いた年でもあった。今後も、地域住民の皆さんと「障害者や高齢者そして児童」らの「安心安全な居場所づくり」に挑戦し、その事業の中核をなすサロン活動をさらに発展させていきたい。

#### 職員配置について

区分	氏名	資格
管理者	門田 晋	
センター長・相談支援員	福島 千尋	精神保健福祉士・相談支援専門員
相談支援員	門田 晋	精神保健福祉士・相談支援専門員
相談支援員	門田 悅子	精神保健福祉士・相談支援専門員
相談支援員	模溪 光香	介護福祉士・相談支援専門員
支援員		

## 2 相談支援の実績

### (1) 運営体制について

#### 相談窓口

窓 口	場 所
むげん	同左
受付窓口 8:30~17:15電話 24時間(17:15~翌8:30は留守番電話対応)	
ファックス 24時間	
メール 24時間	

### (2) 相談件数について(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

#### ①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
211	146	11	174

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
0	0	11	1	554

#### ②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
41	0	111	303	44	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
22	2	31	0	0	0	554

#### ③相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
390	42	4	266	133	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
1	76	15	8	9	1

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
7	5	26	5	1	2	991

## 3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	31	10	39	58	38	10	5	62	81	31	10	8	383
生産活動	50	45	54	29	64	99	60	47	73	116	113	91	841
社会との交流促進	123	119	114	88	82	81	130	105	32	72	51	65	1,062
合計	204	174	207	175	184	190	195	214	186	219	174	164	2,286

4 今年度の地域活動支援センターの運営等について（目標の達成状況、課題などを自由記述）

- ・令和5年度は、併設する就支援B型事業所の新規利用者の拡充に伴い、多くのセンター利用者の来所があった。月平均にすると190名を超えており、コロナ禍以前の総利用者数より多くなっていることとなる。
- ・障害のほかにも、ひきこもり、貧困、家族関係等、様々な課題を抱えておられる方が多く、利用者全体で実施する活動以外にも、一人一人の課題に対し向き合い、個別に応じた支援ができたように感じる。その為か、利用者全体にお互いの強みを認め合い、支えていく力を多く感じる年でもあった。令和6年度も更にその力を高めて行くことを期待したい。
- ・感染症の規制緩和もされ、地域との交流事業の再開として、「夏祭り」や「良い音楽を聴く会」を近隣自治会の皆様と協議を重ね実施した。
- ・令和5年6月からは、地域の若い世代の支援ということで「さんさん広場」を開設し、放課後や長期休暇時にお子様の居場所として働く世代が安心して子育てができる環境づくりの調整を図った。
- ・令和6年度も福祉のある街づくりをテーマに地域の賑わいの創出、誰もが安心して暮らすことができる居場所づくりにチャレンジしていきたい。

## 令和5年度 射水市相談支援事業実績報告（あいネットいみず）

委託先 射水福祉会 あいネットいみず	委託金額 6,000千円
--------------------	--------------

### 1 障がい者相談支援事業に関するここと

事業内容	実績
(1) 福祉サービスの利用援助に関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>射水市子ども子育て支援センター(キッズポートいみず)で行われた射水市地区相談会に相談支援スタッフとして出席し、障がい児の進路についての指導、助言を行った。令和5年度は9回参加した。</li> <li>支援学校卒業生に対して移行支援会議などを通して福祉サービスの利用に向けて支援した。</li> </ul>
(2) 社会資源を活用するための支援に関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、病院、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などと連携し、利用者、保護者、事業所と相談支援専門員で、障がいの理解や利用者の就業面や生活面での課題解決に向けての面接や会議等を年間数回行った。</li> </ul>
(3) 社会生活力を高めるための支援に関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>料理教室や工作教室などの創作活動の後にも障がい者同士が職場や生活のことについて気軽に話し合う機会を計画した。</li> </ul>
(4) ピアカウンセリングに関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>成年後見に関して、法務事務所などに連絡をとりながら保護者との話し合いはスムーズに進められた。</li> <li>今年度は、男性4件女性2件の支援をした。1件につき1回～3回にわたり、支援した。</li> <li>成年後見申し立ての流れの説明から情報の提供や確認、助言を行いながら、司法書士を通して成年後見の申し立てを行った。</li> <li>親族を後見人したいが高齢で後々変更も考えられる者もあった。</li> <li>また、選挙に伴う投票に関する支援や障害基礎年金の申請手続きの支援、療育手帳の申請の支援も行った。</li> </ul>
(5) 権利擁護のために必要な援助に関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談内容に応じて、病院、就業・生活支援センター、後見センター、法律事務所、すてっぷ、障害者職業センター等を紹介し、連絡調整をしながら対応した。</li> </ul>
(6) 専門機関の紹介に関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談内容に応じて、病院、就業・生活支援センター、後見センター、法律事務所、すてっぷ、障害者職業センター等を紹介し、連絡調整をしながら対応した。</li> </ul>

### 2 相談支援機能強化事業に関するここと

事業内容	実績
(1) 専門的な知識を必要とする困難事例等への支援に関するここと	<ul style="list-style-type: none"> <li>射水市障がい者総合支援協議会相談支援部会（年12回）でストレングスマセメント票に基づく事例検討をグループワークで行った。</li> <li>部会の活動を通して、保健・福祉・医療・教育等、関係機関との連携作りに努めた。</li> <li>県圏域アドバイザー派遣事業での講演や主任相談支援専門員との会合を行った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>射水市障がい者総合支援協議会において、各相談支援事業及び障がい者地域活動支援センターの活動の現状、課題等について検討を行った。</li> </ul>
(2) 射水市障がい者総合支援協議会の開催及び運営並びに構成員に対する専門的な指導、助言等に関するこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援部会を毎月第4木曜日に（13：30～15：30）に定期的に開催した。事例検討を3回して、共有化を図り、事例提供後の状況報告も行った。勉強会として、災害時の業務継続計画の作成について、すでに作成実績のある事業所からの説明を受けた。研修会は、福祉バスを利用して、射水市の事業所見学と見学先で相談支援専門員についてのプレゼンテーションを行った。また、地域づくりに当事者の思いを反映させるために、当事者の生の声を聞く会を設けることができた。医療的なケアが必要な重度の利用者とオンラインで会場にいる部会構成員と直接やり取りできた。年度末には、事例検討を通して浮かび上がった地域課題の解決に向けてグループワークを行った。来年度の事例検討では、地域課題の解決に向けて、各専門部会の事案に関連するケースには、各部会長にも出席を依頼し、情報と課題の共有を図っていく予定。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援部会を2月8日に開催し、ワーキングを4回行った。ワーキングでは、歴代部会長、障害者就業・生活支援センター、事務局で、今後についての検討を行い、今年度は就労支援のためのアセスメントシートについて、障害者就業・生活支援センターと富山障害者職業センターとの共催で講義を行った。講義では、富山障害者職業センター主任の障害者職業カウンセラー井上満佐美氏よりアセスメントシートについての話を聞き、グループワークの中で実際にアセスメントシートを使ってみての生の声を部会員で共有した。また、昨年度から話があった事業所ガイドブックの作成にも取り組み、出来上がったものを市役所ホームページに記載し、市役所パンフレットトラックに置いている。来年度は、当事者の思いを中心に射水市の就労の課題を整理していく予定。</li> </ul>
	<p>サービス事業者部会を1回開催した。3月13日に「令和6年能登半島地震時の事例報告」をむげん門田晋氏、射水福祉会稻垣宏氏より発表された。各事業者からの事例報告のあと意見交換会を行った。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども部会では、医療的ケア児、障がい児の不登校をテーマに、7月10日、9月8日、12月6日、3月6日の4回開催した。役割分担などの事前打ち合わせは7回行った。高岡厚生センター射水支所保健師米田氏、小前氏より「医ケア児の災害時個別支援計画の立案の実際」、国際大学子ども育成学部村上満氏より「障がい児の不登校について」、CCCT小児がんコト親の会代表竹内ますみ氏より、当事者の声「小児がん支援活動を通して」（都合により山本部会長が説明）、一般社団法人ガチョック澤田氏より「居場所支援について」を拝聴した。来年度は、医療的ケア児についてワーキンググループを発足し、医療的ケア児と障害児の不登校をテーマに検討予定。</li> </ul>
(3) 市内の相談支援体制の整備状況、ニーズ等を勘案した事業実施計画の作成にすること	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な計画作りを進めるために、個別のケースを通して地域課題の整理、分析を行った。</li> </ul>

## 課題

- 地域生活支援拠点等についての緊急時の支援対象者への対応方法や事前登録について
- ・障がい者の自立支援に係る地域の課題の抽出と共有、社会資源の開発
- ・相談員の資質向上を図るために研修会